

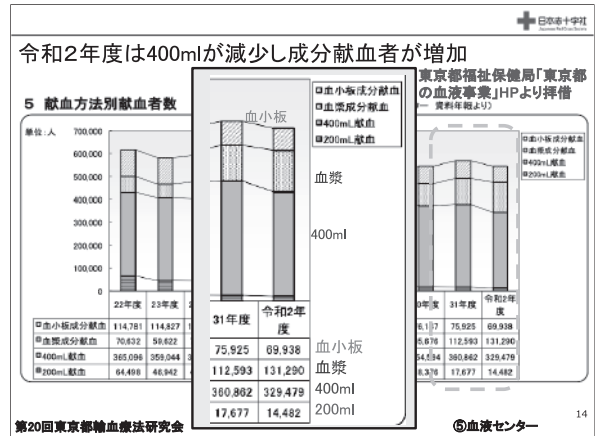
【スライド14】

血液不足の原因は採血が足りないことに尽きます。ここで東京都福祉保健局さまのホームページから献血者数のデータを見てみます。献血者数は令和2年度でもさほど減っていないように見えます。移動採血に比べ、献血ルームの来場者数はコロナ禍でも好調で、むしろ増えておりました。しかし献血ルームでの成分献血者数は増えても赤血球採血はカバーしきれなかったことが血液不足の原因です。幸いに血小板製剤や FFPについては在庫不足になっておりませんでした。



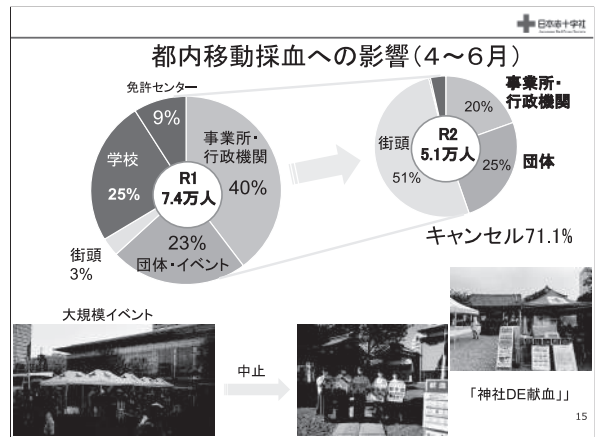
【スライド15】

同じく東京都福祉保健局さまのホームページから献血方法別献血者数のデータを見てみます。令和2年度の状況を拡大してお示しします。成分献血者は増加しておりますが、400ml献血が年間3万人近く減少しており、これが需給ギャップにつながったと考えられます。



【スライド16】

都内の移動採血の減少が赤血球不足に直結しております。東京での移動採血では大学などの学校関係と会社等の集団献血に大きく依存しておりました。さらに全国屈指の大規模イベントが複数あり、それらの多くが中止に追い込まれておりました。昨年4月から6月までで配車予定箇所の71%が中止となり、2.3万人の全血献血者減少が認められました。



【スライド17】

次に検診医師の勤務状況についてご説明いたします。献血検診も医行為に当たるということで、現在全ての献血現場に医師を配置しております。検診医師の勤務状況としては、医師不足が継続中でございます。コロナ禍を契機として、健康に不安を抱えやすい高齢の医師の引退に拍車がかかりました。またワクチン大規模接種開始後に新規の応募が激減して減少に歯止めがかからない状況です。

3) 検診医師の勤務状況は？

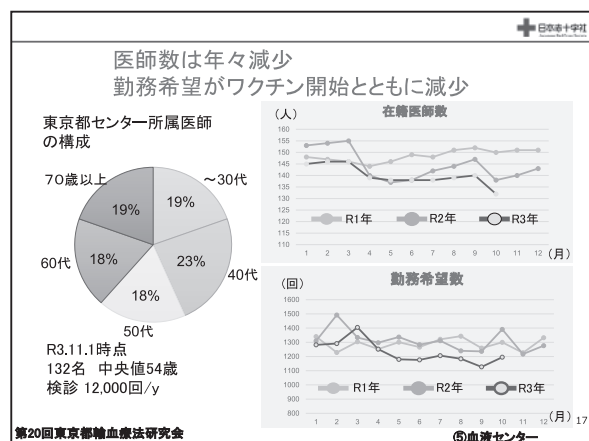
医師不足継続中

- ・高齢医師の引退
- ・ワクチン接種開始後の応募減

第20回東京都輸血療法研究会 ©血液センター 16

【スライド18】

東京都センター所属医師の構成を示します。60歳以上の医師が3分の1以上占め大きなパワーとなっております。ご承知の通りコロナ感染は高齢者での重症化リスクが高いとされ、実際ご自身の健康不安が理由でご勤務に躊躇なさる先生も少なくありませんでした。現在132名でのべ年間1.2万回の検診業務を行っていただいています。所属医師数はコロナ禍で減少の一途をたどり近年で最小となっています。ワクチン接種開始後、医師一人当たりの希望勤務回数も減少しているため、さらに難渋しております。



【スライド19】

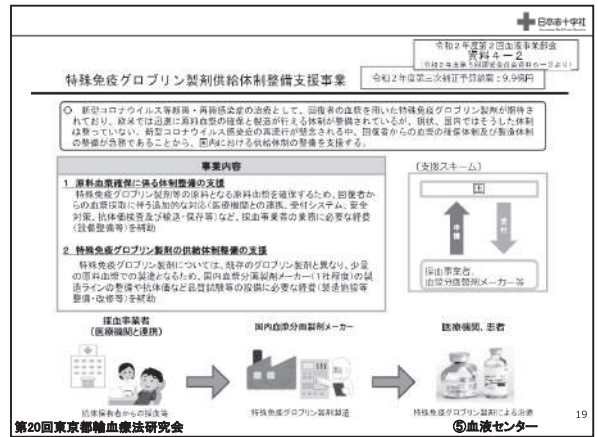
最後にコロナウイルス感染後に回復された患者さん由来血漿から特殊免疫グロブリン製剤を製造する、厚生労働省支援事業についてお話させていただきます。

4) 特殊免疫グロブリン製剤支援事業
—いわゆる回復者血漿採取—

第20回東京都輸血療法研究会 ©血液センター 18

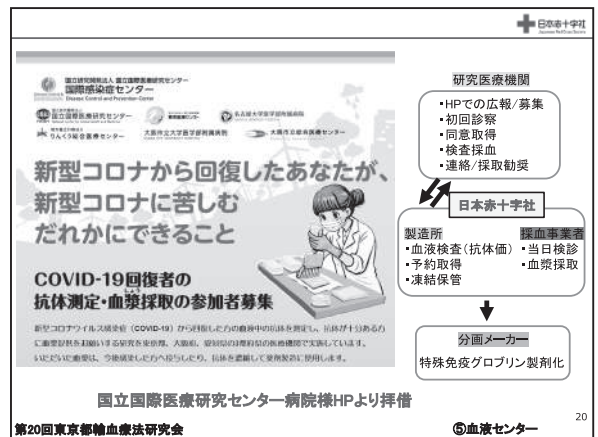
【スライド20】

こちらの支援事業は、日本赤十字社が国から委託いただいたものです。昨年度の第3次補正予算から支出いただいた総事業費9.9億円のプロジェクです。医療機関ないし日本赤十字社で回復後の患者さんから血漿採取を行い、特殊免疫グロブリン製剤を製造しようという事業です。



【スライド21】

左の画像は国立国際医療研究センター病院様のホームページから拝借したものです。このように医療機関様で対象者を募集いただき、同意取得と抗体検査のための検査採血を行っていただきます。抗体価が確認された方から、日赤で血漿採取をさせていただき、冷凍保管を経て製薬メーカー様にお渡しします。



【スライド22】

本事業は東京・愛知・大阪の採血事業所で行われ、東京では当センターの採血室で一般の献血者とは別個に採取させていただきました。血漿採取は通常の成分献血者と同様に、通常使用する成分採取機器で法令通りの体重別量を頂戴しております。11月5日時点で112人にご協力いただき、計6.2万mLの血漿成分を採取しております。


東京都センターでの回復期血漿採取状況

期間	R3.9.10 - R3.11.26
場所	東京都赤十字血液センター 採血室
受付者数	124名
男/女	55 / 69
年齢(歳)	中央値49
採血者数(人)	112
不採血者数(人)	12
採血副作用(人)	5
総採取量(ml)	VVR 3 皮下出血2 62,361

R3.11.5時点

【スライド 23】

以上、コロナ禍での輸血医療への影響について血液センターの立場から報告させていただきました。血液使用量への影響は軽微でした。需給ギャップが解消できず、難渋しております。特にRBC製剤のための400mL献血確保が課題です。医師不足も継続中です。回復期血漿採取に112名のご協力を頂戴して計6.2万mLの血漿を採取できております。




まとめ: コロナ禍での影響について

- 1) 血液使用量への影響は？
: 一時的減少のみでほぼ影響なし
- 2) 需給ギャップは？
: RBCで供給量が採血量を上回る状況
- 3) 検診医師は？
: 医師不足が継続中
- 4) 回復期血漿採取について
: 112名から6.2万ml採取(11/5現在)

第20回東京都輸血療法研究会血液センター

【スライド 24】

ここで医療機関の皆様にご協力をお願いしたい点がございます。血液安定供給のため、私どもは輸血量予測の精度向上を目指しております。輸血量に影響を及ぼす情報の取得に何卒ご協力をお願いします。例えば診療体制の変更・コロナ患者受入状況・手術の延期・病床数の変動等の情報が大変有用です。よろしくお願いたします。また在庫状況により、製剤規格や配送便変更等をお願いする場合がありますので、何卒ご理解を賜りたいと存じます。さらに献血ルームやバスで献血へのご協力いただきますと大変助かります。



医療機関の皆様へのお願い

血液安定供給のため、
輸血量予測の精度向上を目指しております

輸血量に影響を及ぼす情報の取得にご協力をお願いします
(コロナ禍での診療体制の変更・コロナ患者受入状況・手術の延期・病床数の変動等)

在庫状況により、製剤規格や配送便変更等をお願いする場合がありますので、何卒ご理解を賜りたいと存じます

献血ルームやバスで献血へのご協力いただきますと大変助かります

第20回東京都輸血療法研究会血液センター

【スライド 25】

最後に恐縮ですが、12月17日に国内最大級の献血ルームが新宿東口にオープンいたします。ボタニカルを基調としたコンセプトの施設で、大変素晴らしい環境を提供できますよう準備いたしております。こちらの方も何卒よろしくお願い申し上げます。



【スライド 26】

ご静聴誠にありがとうございました。

